

報 告 書

2012年6月 日

東京高等裁判所第17民事部 御中

弁護士 奥 村 秀 二

2011年9月28日付報告書で、控訴人イスワディ（Iswadi 控訴人番号 B.2）より、身上関係、移転の経緯、移転後の新村での生活状況、インドネシアでイスワディらが取り組んだ生活改善のための活動について報告しましたが、2012年5月初めに現地を訪問し、移転前の生活状況を聴取してきました。

その結果は下記の通りです。

第1 旧タンジュン・パウ村の概要

移転する前のタンジュン・パウ村（以下旧タンジュン・パウ村と言います）は、マハット川（Sungai Mahat）沿いにあり、カンパール川との合流地点を9kmほどさかのぼったところがありました。別紙添付した地図（LAND COVER IN YEAR 1990と題する地図）で、タンジュン・パウ村と印されているところです。

マハット川が大きく曲がるところで、プロウ・パンジャン（Pulau Panjang）、コト・ラモ（Koto Lamo）、パサール・ブユ（Pasar Buyuh）という3つの地区からできていました。1990年頃で、プロウ・パンジャンに76世帯ほど、コト・ラモに55世帯ほど、パサール・ブユに約210世帯が住んでいました。そして、村全体では1900人くらいが旧タンジュン・パウ村に住んでいました。

村の中心はパサール・ブユで、パダン・プカンバル・メダンを結ぶ国道沿いにあり、商店や、モスク（Mesjid）、小学校（Sekolah）及び村役場（Kantor Kepala Desa）などがありました。パサール・ブユの真ん中あたりをブユ川（Sungai Buyuh）が流れており、国道にはブユ川を跨ぐ橋（Jembatan）がかかっていました。

また、コト・ラモの南側をアンキ川（Sungai Anki）が流れており、プロウ・パンジャンの対岸でマハット川に合流していました。ブユ川とアンキ川は乾季でも水が枯れることはなく、田畑への水に使っていました。

旧タンジュン・パウ村の略図を作成しましたので添付します。

第2 旧タンジュン・パウ村の産業

1 交通の要所として

旧タンジュン・パウ村は、パダン・プカンバル・メダンを結ぶ幹線道路（国道等）沿いにあり、国道は多くのトラックやバスが行き来しており、その中間地点としてレストランやワルン（食堂・喫茶・休憩所を兼ねた店）がたくさんあり栄えていました。

ヌルハイニ（Nurhaini）さんやサイダン（Saidan）さんも、そうしたワルンやレストランを営んでいました。

トラック輸送が盛んになる前には、河川を利用した水運の中継地点として栄えていたのですが、私が記憶にある頃にはトラック輸送になっていました。

2 ゴム園

旧タンジュン・パウ村での主要産業はゴム園でした。村人の多くはゴム園を持っており、ゴムを採取しその収入で生活していました。

以前は広大なタナウラヤット（共有地）がありましたので、生活に必要ながあれば、ニック・ママックに頼んでタナウラヤットを分けてもらってゴム園を作ることができました。

ゴム園を作るには、タナウラヤットの木を切りこれを焼きます。焼き払ったところにはまず陸稲を植えて収穫します。その後にゴムの苗木を植えて約7年間育てました。この間、肥料は与えません。そうするとゴムの木は、直径25 cm、高さ5 mほどに育ちます。こうして育ったゴムの木から、生ゴムを採取しました。なお、今は苗木に肥料を与え、5年でゴムの採取を始めます。

ゴム園が2haあれば、標準では700本のゴムの木を植えるとされていました。それ以上植えることも多く、当時これだけのゴム園があれば新婚の1家族（父母と子ども3人）が生活していくことは十分できました。子どもが多いときや後述するように子どもを上の学校にやろうとするときは4ha以上のゴム園が必要でした。しかし、当時、タナウラヤットは十分ありましたので、4haのゴム園を持つことは難しいことではなく、土地の開墾や維持を十分に行いさえすれば持つことができました。

ゴムの木は、植えてから7年で採取を始めてから40年間ほどが一番良く採取できました。植えてから50年ほどになるとゴムの木は、幹周りが1.5 m以上、高さが12～15 mほどになりました。当時、村には植えてから50年以上になるゴム園がありました。私の家でも、祖父が植えたゴム園で50年以上経っているものがありました。

採取した生ゴムは固め、週に1回、パサール・ブユにあった市場に持って行って、仲買人（旧タンジュン・パウ村の人でした）に売りました。仲買人は、バンキナン、プカンバル、パダン、メダン等の町にあった工場に持って行って売っていました。その工場

は華僑の人が経営していることが多かったですが、シンガポールを経由してアメリカ、日本、中国などに輸出していると聞いていました。

当時は良く手入れされ、ゴムの苗木や土壌も良かったので、2haのゴム園から1日15kg程度のゴムがとれ、1ヶ月で300kgから450kgほどとなりました。今は、2haのゴム園から1日4～8kgほどしかとれません。これは、ゴムの苗木が悪い上、肥料がないと育たない品種であることから、政府から必要な肥料が提供されなかった結果施肥がきちんとできずゴム園の状態が悪くなっているためです。

但し、雨期は、雨でゴムの樹液が流れてしまったり、採れても品質が落ちたりするので、晴れていないとゴムの採取ができません。また、樹液採取のために切ったところに雨が当たるとゴムの木を傷めてしまいます。ですから9月から12月の雨期はゴムの採取は難しく、上記ほどの収穫はありませんでした。その分、雨期はいろいろな果樹が実りますので、果樹の販売等で生計を立てていました。

私の家では、移転前、ゴム園からの収入が全体の50%くらいを占めていました。

3 果樹園

当時、旧タンジュン・パウ村では、果樹の栽培が盛んでした。特にミカンが多く、マハット川、アンキ川やブユ川沿いにミカン畑がたくさんありました。

ミカンは年に3、4回採れました。そのうち2回はたくさんの実がなりました。マンギス、ドリアン、ドゥク、ランバイ、ランブータン、ジャンプ、マンガなどの果樹は、年に1回、雨期にとれました。また、屋敷地にはココヤシやバナナの木を植えており、これら売ることができ収入になりました。

私の家では、移転前、こうした果実（椰子を含む）の売買からの収入が、全体の4分の1ほどを占めていました。

4 田・畑作

旧タンジュン・パウ村では、水田を持っている人もいました。その人たちはマハット川に注ぐ小川の水を引いていました。持っている人は全体の5%から10%程度で、水田の広さも1世帯あたり0.25ha～0.5ha程度でした。ほとんどは自家用でしたが、二毛



作でしたので自家用以上にとれた時には売る人もいました。

コトパンジャン・ダムで水没しなかったパンカラン・コトバルには、昔ながらの水田があります。前頁の写真は、現在のパンカラン・コトバルの水田です。旧タンジュン・パウ村にもこのような水田がありました。ただ広さはこの水田ほどはありませんでした。

また、タナウラヤットでは焼き畑をして陸稲を作っていました。陸稲は、焼き畑の準備の期間を含めて1年に1回の収穫でしたが、1haの焼き畑で400kg程度の陸稲がとれました。中にはもう少し広く焼き畑をして年1tから1.5tの陸稲を作っている人もいました。400kgの陸稲があれば3人家族（夫婦2人と子ども1人）が1年間食べていくことができました。

必要以上に陸稲がとれたときは、慣習上、豊作を祝うパーティを開いて村人を招くことになっていました。陸稲はタナウラヤットで焼き畑をして作るものでしたので、豊作の時は村人とともに祝うことになっていたものです。

また、畑作もやっており、そこでは、クニット、ショウガ、唐辛子などの香辛料や、キュウリ、タピオカ、タマネギ、カンド（ネギの一種）、ピトゥロウ（カブの一種）、パリオ（ニガウリ）、キャッサバ等の野菜類を作っていました。これらの作物はほぼ自家用でした。畑は屋敷地の近くに作りましたが、陸稲を作った後にゴムを植えた場合でも、ゴムが育ってくるまで畑として野菜を作るということもありました。

5 ガンビル

ガンビルは、傷薬、化粧品原料、染料などに使われていました。

左の写真は、タンジュン・パウ村のアヒルマンさんのガンビル園の様子を撮影したものです（いずれも2004年1月に撮影した

もの）。アヒルマンさんが営んでいる食堂裏にガンビル園があります。写真で人の背の高さくらいに育っている低木がガンビルでその葉を加工します。

ガンビルは苗を植えてから1年半程度で生産ができるようになります。葉を摘んでそれを加工します。しかし、この



加工には技術が必要で、村人の中にも加工できる人がいましたが、多くは外から人を雇って作業をしていました。葉を茹で、その葉をたたいたり擦ったりして汁を搾り出し、これを固形化し乾燥させます。

左の写真に映っている小屋が、ガンビルの葉を茹でるなどの作業を行う小屋です。



上の 2 枚の写真は、小屋の様子を写したものです。小屋の中が煤けているのは、ガンビルを煮るのに木を燃やすためです。

6 家畜

旧タンジュン・パウ村では、水牛、山羊、鶏、アヒル等の家畜が飼われていました。

水牛は、育てて売っていました。お金が必要なときに売却する資産という面がありました。山羊はお祝い



水牛が放牧されている様子（タンジュン村 2005.9 月）

の時に必要なもので、そういうときに売買されていました。鳥も自給分以外は大きくなると売られていました。

私の家でも、山羊、鶏、アヒルを飼っており、自分たちが食べる分以外は売っていました。

7 漁業・林業、その他

移転前のマハット川にはたくさんの魚がおり、村人たちはこれを釣って毎日の食事に供していました。マハット川に魚はたくさんいましたので、魚を捕ることは簡単でした。たいていは自分たちが食べるために釣ったり取ったりしていましたが、中には漁業を本業にしている人がおり、国道沿いにあったレストランに売りに行っていました。

また、養殖池を作って魚を育てていました。主に自家用でした。魚のえさは池にいるミミズやアメンボ等の昆虫の他は、野菜屑を与えていました。また、池の上にトイレを作り、排泄物をえさにしていました。

開かれていないウラヤット（共有地）には、ラタン（籐の木：家具用）や材木用の木がありました。村人たちは、そうした木を切り出して売ることもしていました。また、このウラヤットでは、ダマル（Damar）という樹脂の塊を採取することもできました。この樹脂は、地元ではサンパン（小舟）の防水に使用していました。以前は、ランプの油として使用していたそうです。これも売ることができました。これ以外にも、ナンカ、モニ、ダンブイ、サラックなどの果樹や、ペタイという長豆の一種がウラヤットの中にあり、この収穫も追加収入になりました。さらに、鹿を罠で捕まえて鹿肉として売ったり食べたりすることもありました。

その他にも、マハット川の砂や石を建築材料として売ることもありました。

乾期雨期に応じてそれぞれ生産できるものが変わりましたので、それにあわせて生業を営んでいました。

第3 日々の生活

1 私の家

私の母は、プロウ・パンジャンに家を持っており、私は小学校5年生までここに母と一緒に暮らしていました。

プロウ・パンジャンとパサール・ブユは道でつながっており、私は川沿いの道を歩いてパサール・ブユにあった小学校に通っていました。コト・ラモはマハット川の対岸にあり、橋がなかったので、同級生たちはサンパン（小舟）に乗って通っていました。

小学校の近くには、叔母（父の母の妹）のユリスマワティ（Yulismawati）さんが住んでおりワルンを営んでいましたので、小学校の帰りには良く立ち寄っておやつを食べさせてもらっていました。

小学校 6 年になると私は父の家に移りました。父の家は、パサール・ブユから少しパダンの方に行った国道沿いのロナ・クタンカウ (Ronah Ketangkau) というところにありました。

旧タンジュン・パウ村や旧タンジュン・バリット村には中学校がありませんでしたので、私はマハット川の上流にあるパンカラン・コトバルの中学校に進学しました (今も同じ場所に中学校があります。建物は建替えられて新しくなり大変良くなっています。その写真を下に添付します)。中学校に父の家から通うことはできませんでしたので、パンカラン・コトバルに下宿しました。

中学校を卒業した後は、後述の通り母から進学するよりもゴム園で働くように言われたこともあり、高校に進学することはなく両親のゴム園を手伝いました。その後、パダン、ジャカルタ、マレーシアなどにムランタウ (出稼ぎ) に行き、1997 年 6 月に今のタンジュン・パウ村に帰ってきました。



私がムランタウに出たのは、村の慣習として、学校を終えた若者は一度村の外に働きに出ることになっていたからです。

2 父母が所有していた農園等

私の家では、母がプロウ・パンジャンの近くの 4 カ所に土地を持っており (それぞれスンガイ・ディアル [Sungai Diaru]、バトゥ・クラバウ [Batu Kerabau]、ボティオン・トゥンガン [Botion Tungang]、サロガン [Salogan]) と言いました。別紙略図に記載しました)。合計で 6ha ほどのゴム園と 3ha ほどのみかん園を持っていました。

父は、家があったロナ・クタンカウの他に 3 カ所の農園を持っており、合計で 10ha ほどのゴム園と、ミカン等の果樹園が 4ha ほどありました。

上記の通り父母は多くの土地を持っていましたが、9 人兄弟で、子どもが多かったので、裕福とまでは言えませんでした。

3 生活リズム等

当時の日々の生活は、朝 5 時に起き、乾期でしたら簡単な朝食を取った後、ゴム園や畑に行き、10 時～14 時くらいに帰宅します。そしてしっかりした昼食を食べた後、釣りや果樹園・畑に行き、16 時頃には帰ってきて、後はお祈りをし、夕食を取り、21 時

か22時頃には寝ました。当時は電気もテレビもありませんでした。

雨期ですと雨が多く、雨が降ったときは上述の通りゴムの採取ができませんでしたので、果樹園や畑に行ったり、ゴム園の下草刈りをしたりしました。お昼前後に帰ってきた後は同じ生活でした。雨期は果実がとれました。ドリアンの場合、夜に果実が落ちてくるので朝一番にそれを拾うため果樹園に泊まり込むこともありました。

生活リズムは簡単でしたが楽しい生活でした。

食事は、上述の通り朝は早いため軽食で、焼きめしやおかゆにコーヒーやお茶くらいでした。昼食は、ご飯に、魚・鳥・卵などに野菜といった副食を食べました。16時前後に帰宅したときには、揚げバナナや揚げ芋、煮芋などをおやつに食べました。夜は、昼と同じように、ご飯に、魚・鳥・卵と野菜といった副食を食べます。味付けは、塩の他に、唐辛子やココナツミルクに、クニクなどの香辛料を使ってしていました。

お祭りの時には、グライ、レンダンなどの伝統的な牛や山羊の煮込み料理が出るなどして華やかなものでした。

飲み水は、マハット川やブユ川に流れ込む小川の水を引いて使っていました。マハット川の近くに住んでいる村人は、マハット川の真ん中に行って水を汲んで使っていました。

マハット川やブユ川、及びこれらに流れ込む小川は、マンディ（水浴び）や洗濯の場所でもありました。当時、村人たちは、川で体を洗っていました。

4 現金の支出

主食の米、副食の野菜や魚・鳥などは、ほぼ自分たちで作ったもので賄っていました。塩、砂糖や油は購入していました。コーヒーは少しは自作していましたが、多くは購入していました。石鹼・灯油などの日用雑貨及び衣服も購入していました。これらの費用はゴム園や果樹園からの収入で十分賄えました。

お金を使うのは、こうしたものを購入することの他は、子どもの教育費が大きなものでした。子どもの進学でお金が必要なときには水牛や山羊を売ってお金を用意する人もいました。

5 村の行事

移転前は、電気が来ておらず、テレビは、裕福な人が、自家発電機を備えて白黒テレビを見ているくらいでした。普通はラジオでした。その分、結婚式や、慣習・宗教上の行事が、楽しみでした。

結婚式では、太鼓や鐘を打ったりし、きれいに飾って村人みんなで賑やかに楽しみました。また子どもが生まれて少しすると赤ちゃんをマンディさせるトゥールン・マンディ（Turun Mandi）という行事がありました。これは水に親しむという意味があります。村のみんなで祝います。この行事では子どもたちにお菓子が与えられます。

断食前及び断食後にはパチュ・サンパン（Pacu Sampan：小舟レース）と呼ばれていた数隻の小舟を使ったレースがありました。こうしたレースとしては他にも自転車を使ったレースや竹登り競争もありました。また、パチュ・ゴニという米袋に入って走る競争や、パチュ・クルップとってクルップという菓子をひもでつるして口だけで食べる競争、果物にコインを差し込み炭で真っ黒にしたものを口だけでとる競争などもありました。

断食の前日にはバリマウ（Balimau）とって、マハット川で沐浴をして体を清める行事がありました。断食中は、朝4時頃に朝食をとった後はモスクに行き祈ります。そして、日の出から日没まで断食し、断食明けの食事を皆でした後は、またモスクに行ってお祈りをし説教を聞き、夜10時頃に帰りました。若者たちは説教の後、コーランを唱えて夜11時か12時頃に帰りました。

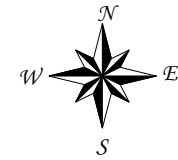
断食月が終わった後は、レバランというお祭りがあります。このときはイスラムでの新年にあたり、家族全員が集まります。断食月が終わった翌日には家族みんなでモスクにお祈りに行きます。その後1週間は仕事・学校なども全部が休みとなり、その間にお互いに訪問し合います。このレバランの時には、伝統的な食べ物やお菓子など、おいしいものをたくさん食べます。

また収穫のパーティもありました。

こうした行事が、村の生活での楽しみと喜びでした。今はほとんどの行事がなくなりました。

以 上

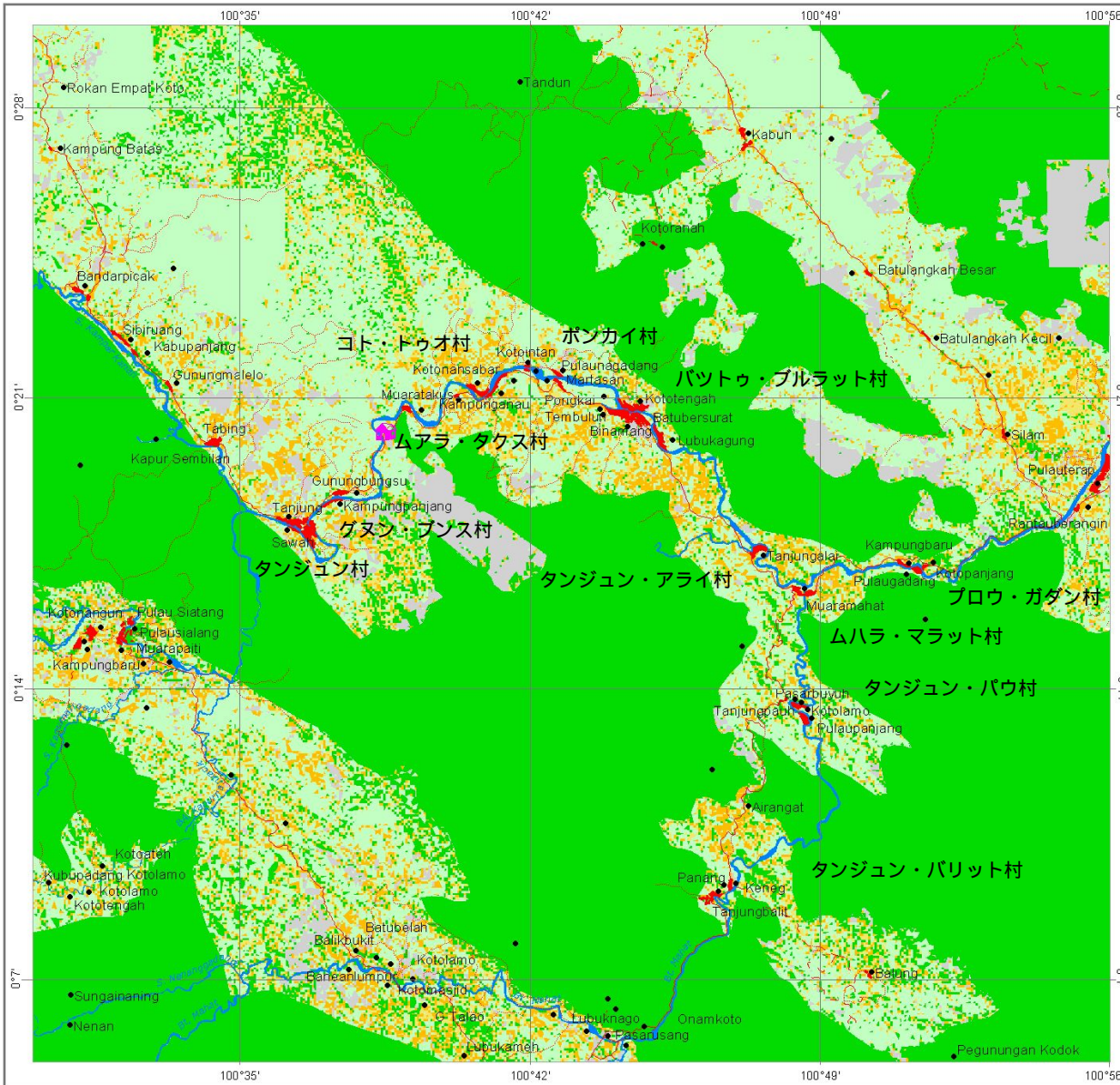
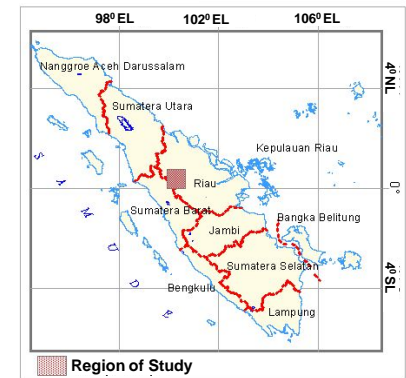
LAND COVER IN YEAR 1990 DAM KOTOPANJANG AND SURROUNDINGS



LEGEND

- | | | | |
|---|-------------------|---|-----------------------|
|  | Forest |  | Village |
|  | Rubber Plantation |  | Settlement |
|  | Bushes |  | Shrine of Muara Takus |
|  | Open Ground |  | Stream |
|  | Unirrigated Field |  | Hard Road |
|  | Water Body |  | Horse Road |
| | |  | Footpath |
| | |  | Wagon Road |

MAP INSET



Source : Image Interpretation of Landsat TM 7 Path/Row 127/060 acquisition 1990
Topographic Map scale 1 : 50.000 Sheet 0816-11, 0816-12, 0816-13,
and 0816-14 produce by Bakosurtanal 1984

WALHI

Scale 1 : 200.000



旧タンジュン・パウ村の状況

